

Horticultural Therapy について思う

On Horticultural Therapy

山中 康裕

京都ヘルメス研究所・京都大学名誉教授／第 19 期日本学会議員・医学博士

1. Horticultural Therapy とは

Horticultural Therapy という言葉を聞いて、すぐに、ああ、あれのことねと言える日本人は、皆無に近いだろう。Horticulture とは「園芸」、Horticulturist とは「園芸家」と訳される言葉である。ラテン語でよく引用される hortus siccus という語はいわゆる「押し葉」であるが、もともとは dry garden 「乾ける庭」の意味であり、つまり、hortus とは、「庭」「庭園」のことである。

2. 「庭」という語から、私が、まず連想するのは、イギリス 17 世紀の形而上詩人 Andrew Marvell (1621 - 1678) の“The Garden”という詩である。

The Garden 「庭」 訳詞：山中康裕

How vainly men themselves amaze

如何に人は虚しくも困惑せることか

To win the palm, the oak, or bays,

勝利の証たる椰子樹、樅、或は、

月桂樹を勝ち獲るために、

And their incessant labours see

絶え間なき労働よりみる

Crown'd from some single herb or tree,

一片の草葉や木で報はれむことを。

Whose short and narrow verged shade

短く狭き縁つきの日除けの

Does prudently their toils upbraid:

思慮深くも彼らの骨折りを厳く非難する；

While all flow'rs and all trees do close

全ての花々や木々の命を了へる傍ら

To weave the garlands of repose.

永眠の花輪を編まむために。

3. そして、やはり、「庭」から、ヨーロッパでは、英国式庭園 English garden イングリッシュ・ガーデン (French: Jardin à l'anglaise, Italian: Giardino all'inglese, German: Englischer Landschaftsgarten, Portuguese: Jardim inglês, Spanish: Jardín inglés)

《狭義では、平面幾何学式庭園に対して自然の景観美を追求した、広大な苑池から構成されるイギリス風景式庭園を指す。この意味のほか、19 世紀のイギリスで認識されるようになった Cottage garden などの園芸様式を含めて用いることもあり、現代日本において家庭園芸 (ガーデニング gardening) 用語として使われる「イングリッシュガーデン」は、この流れを汲む》をまず思うし、それに対して、フランス式庭園 Jardin français ジャルダン・フランセーズ french garden) は《平坦で広大な敷地に軸線 (vista) を設定しての左右対称性、幾何学的な池の配置や植栽の人工的整形などを特徴とし、17 世紀から 18 世紀にかけて主にフランスで発達した平面幾何学式庭園。斜面を利用したイタリアの露壇

(terrasse) 式庭園の様式がフランスの国土や政治形態にあった形に生まれ変わったスタイルで、その後世界的に大流行。代表例にルイ 14 世の命により造園家 Andre Le Notre が考案した Versailles 宮殿の庭園があり、その成功により、イギリス王室はじめ周辺各国の貴族庭園に多大な影響。その整形性は自然の規則性を反映するものであったが、設計の単調さにより「死せる野」と評されることもある。》

或いは、ドイツ式庭園 deutscher Garten ドイツチャー・ガルテン (German garden) 《ドイツの庭園とガーデニングは、イギリス式の風景的な庭園とフランス式の平面幾何学式庭園を、併せたような庭園といつてよいだろう。ドイツにおいては、建築、工業などと同じく、実用性に重点を置いた庭園が特徴。ガーデニングでは、花やハーブ類と一緒に、野菜などを育てたりすることも。この様式が、ドイツ庭園とガーデニングの最も特徴的なところである。》

次いで、イタリア式庭園: Giardino Italiano ジャルディーノ・イタリアーノ (Italian garden) 《幾何学式庭園で、テラス式、あるいは露段式庭園とも呼ばれ、丘の中腹に配される隠れ家のような敷地の立地条件、庭園敷地が長角形などの形態のテラス数段での構成、上段テラス中央に建物を配して軸線 (vista) を設定し左右対称の構成をとる、多くの人工物を配して訪れる人々を楽しませる、庭園の内部から周囲の風景を眺めパノラマ景を楽しむ、などを

本稿は、日本園芸療法学会 10 周年に際し、理事の方に依頼したものである。

特徴とし、14世紀から16世紀にかけて主にイタリア郊外の別荘(villa)で発達した庭園を指す。とくにルネサンス以来造られていった多くの庭園で全体的に一つの特徴を成す。》

4. それら伝統的なヨーロッパ庭園に対して、我が、日本庭園は、全く、様相を異にする

《日本庭園の構成としては、「池」を中心に、土地の起伏を生かすか、「築山」を築いて、自然石としての庭石や草木を配し、四季折々に観賞できる景色を造るのが一般的である。「滝」を模し水が深山から流れ出し、大きな流れになってゆく様子を表現する手法や、「石」を立て、また石を組合せることによる石組表現、宗教的な意味を持たせた蓬莱山や蓬莱島、鶴島、亀島などに見立てる手法が多く用いられる。池や流れを渡る通路には太鼓橋、飛び石、まれに八つ橋のようにジグザグ橋などが使われる。

庭園内には灯籠、東屋、茶室なども配置される。また「枯山水」と称される、水を用いずに、石、砂、植栽などで水流を表現する形式の庭園も作られた。白砂で水の流れを象徴するところに特徴があるが、これは庭園には水が不可欠のものであるという考えがひそむ。庭園のことを「山水」といったのもそのためである。室町時代以降には枯山水は禅宗の思想と結びつき、禅寺などで多く作られていく。江戸期以降になると庭園内のみならず庭園外の景色を利用する借景という手法も広く用いられる。

日本の庭園様式の変遷を繙けば、建築様式の変化や大陸からの宗教や思想の影響が庭を変化させている。磯崎新は日本の庭園が特に海などをメタファーにすることにつけるように思われるのは「見立て」というメタファー発生装置を作り上げたためだと述べている。作庭記の記述も池泉やそれらを表現するための石組みなどで見るごとく、自然をメタファーとして表現し、見立てによって縮景を行う作庭手法を伝聞する。このようなメタファーを用いたのは、それが表現するものを不特定多数の人に伝える浄土式や神仙などのような古来の思想を含んだ庭には表現すべきモデルとしての、齋庭などの儀式の庭はその場の神や同調者とが、禅寺の庭も景を修行のひとつである思想を持つ人々が共有する景が必要であるからとされる。

建築から外部空間の問題は近代期の日本においては逆説的とされる。これは日本の伝統的な建築的風土は外部空間を自明なものとして現前させてきているからである。近代建築のように様式という縛りがなくなり、すべての空間構成要素は等価となり、べつの空間構成言語として外部空間は意識されると、近代建築のフィルターをとおして日本の伝統的空間に対する理解を深めていったモダニストの建築では外部空間の重要性に気付き、これを自らの空間表現の

組上に載せた。》(以上、ウィキペディアより、抜粋引用)

ところが、我々の立脚する「園芸療法」は、上記のような「形式的な美」を求めるものとは一線を画して、「美」よりも、「土そのもの」と触れる、という体験を重視する。つまり、実際に手を使い、土を耕し、植物にじかに触れて、それらとの共存を図るのが第一の眼目なのだ。

5. おわりに

私が、本学会の成立に際して、その一等最初から、学会設立に関わったのには理由がある。それは、私自身が、《川ンセラ》を自称していることから知られるであろうが、現代の人間は、いわゆる《自然》と切れてしまい、もっぱら、機械的な空間に生き、コンピュータなどの、ヴァーチャルなモノどもに操られて(本人自身は操っている積りなのであるが、もっと広い目で見たら、明らかに、その実は真逆で、彼らは、操られているに過ぎない)、完全に、自然さを失ってしまっている。その際に、彼らを本来の意味において癒そうとしたら、あきらかに、《自然》との再結合を図る必要があり、その際、この Horticultural Therapy が必然的に浮上してくるからであった。

引用文献

- 山中康裕：「カウンセラー世界の36河川に行く」岩波書店発行の雑誌《科学》2005. 7～の18本の論文
- 山中康裕：『子どもの心と自然』東方出版。2006. 7
- 山中康裕：『心をつなぐ川を訪ねて』。NHK出版。2014. 7.
- 山中康裕：「カウンセラーからみた現代の子ども」原田誠一編『精神医療から見たわが国の特徴と問題点』外来精神科診療シリーズ。partⅢ。メンタルクリニックの果たすべき役割。中山書店。p93-96。2017. 12.
- 山中康裕：海外文献紹介；Der Regenmacher und die Flüchtlinge；雨乞い師と難民。Jörgе Rasche Zeitschrift für Sandspiel Therapie Heft 39. Dez,2015；精神療法。44. 2. p301-302. 2018.
- John Cannon:The Oxford Companion to British History. Oxford University Press. 2009. ISBN 9780199567638.
- Yves-Marie Allain and Janine Christiany:L'Art des jardins en Europe, Citadelles and Mazenod. Paris. 2006.
- Lucia Impelluso: Jardins. potagers et labyrinthes, Mondatori Electra. Milan.
- John Dixon Hunt:Garden and Grove. London. 1986.

Stepanova, Jekaterina Kraushaar, Frank, ed.
Eastwards: Western views on East Asian
culture Bern: Peter Lang. pp. 155- 156. 2010.
ISBN 978-3-0343-0040-7.

Clark, H.F.:The English Landscape Garden.
London. Pleiades. 1948.

Yves-Marie Allain and Janine Christiany,:L'art
des jardins en Europe. Citadelle at Mazenot.
Paris. 2006.

From Wikipedia. the free encyclopedia.

Andrew Marvell:"The Garden",Robert
Boulter. 1681.

Creative Commons Attribution/Share Alike
“ verfügbar; Informationen zu den
Urhebern und zum Lizenzstatus
eingebundener Mediendateien

Questa pagina è stata modificata per l'ultima
volta l'8 apr 2018.

Arata Isozaki : Arata Isozaki, ed. by Arata Isozaki
and Ken Tadashi Oshima. London. Phaidon,
2009.